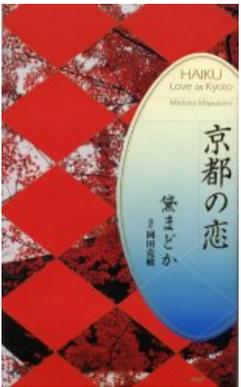
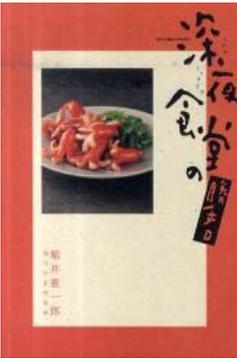


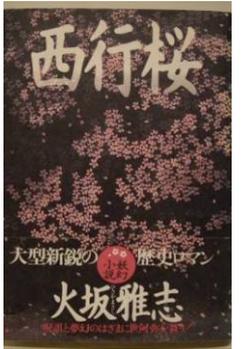
001 健

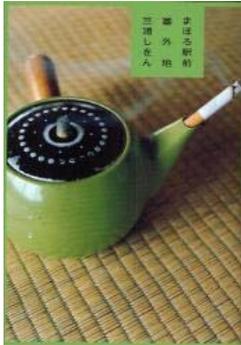
No.	読書日 2009年	タイトル	著者 出版	表紙	コメント	評価
1	0918-0919	新参者	講談社 東野圭吾 1,680円		東野圭吾の作品の中ではポピュラーな刑事、加賀恭一郎が狂言回しの役を務める市井ものの現代版。いままでの加賀作品は深刻なものが多かったが今回は人情もの仕立てで読後感はいい。日本橋で起きた殺人事件の聞き込みで人形町の老舗の店を回るうち事件の情報と共にそれぞれの店の抱える人間関係のもつれや悩みを知った加賀が別の聞き込みで知り得た情報を元に守秘義務に違反しないようそれとなくアドバイスを送り勘違い・すれ違いの糸をほぐしてゆく連作ものになっている。甘いところもあるがハッピーエンドの連鎖が心地よい。	
2	0922-0924	美食探偵	講談社 火坂雅志 1,995円 (鶴見図書館)		主人公は村井弦斎という明治時代に「食道楽」という作品で一世を風靡した男。異色の人物を探偵役に据えて当時の最新の美食(牛肉、アイスクリームなどの流行りもの)をネタに明治文化と行楽地のロケーションの中で起きた事件を解決する連作ものになっている。ロマンスとダンディズムを交えて飽きさせないがネタによっては事実かどうか疑わしいところもある。	
3	0925-0930	吾輩はシャーロック・ホームズである	角川文庫 柳広司 580円		漱石がロンドン留学中にノイローゼになった史実を踏まえ、ホームズであるとの思い込みをしてワトソン医師のもとに現れるのが発端。ロンドン塔で発生した事件に巻き込まれ、ホームズばりの推理・分析を披露するが合理的のようになって事実はことごとく外れている。物の見方によって事実が異なるところが滑稽。本物のホームズは作品中には現れず海外出張中。ピンクパンサーのクルーズ警部の如く動き回る夏目ホームズに困ったワトソン医師が送った手紙であっさり本物のホームズは事実を把握してしまう。留学中当時の夏目の生活ぶり、ロンドンの文化を取り込んでいるのは柳作品のいつもの手法。夏目漱石は好きな作家の一人なのでピエロ役になっているところが残念。	

4	1001-1004	紙の宝石 書票を楽しむ	北海道新聞社 2,136円 (横浜市中央図書館)		<p>書票とは本の所有者を明らかにするもので日本では蔵書印がこれに当たる。西洋では印章の文化が無いかわりに高い印刷技術による票を貼る文化が根付いた。書票には持ち主の名と蔵書を示す EXLIBURIS のラテン語、意匠の3要素からなっている。意匠はふくろう、エジプト、らんぶ、本などが比較的多く日本でも版画による書票が作られるようになり「蔵書」の文字の他「又貸し無用」などの文字入りのものもありません。本書は書票への入り口として一枚一枚の書評について図柄の説明やウンチク、作者の略歴を交えた文を添えておりデザイン本+エッセイ感覚で読める一冊。</p>	
5	1005-1005	弟の部屋には本棚がない	本の雑誌社 1,365円 吉野朔実 (横浜市中央図書館)		<p>ジャンルとしては書籍の紹介本なのだが作品の内容については余り触れていない。むしろ著者の感想、疑問、読書仲間とのやりとりが多く DOKU-GAKU って本当はこういうことをやりたかったのではないかと思わせる本。</p>	
6	1005-1005	京都の恋	PHP研究所 黛まどか 1,680円 (横浜市中央図書館)		<p>京の四季折々の自然と「大人の恋」を詠った人気俳人の句集。俳句と京の風景写真のコラボレーションが旅情を誘う。季語は京都の暮らしを基準にしていると言われており日本人の暮らしの原点ともいえる京都。著者が京都を訪れたり滞在して感じた自然の息吹、目にした情景を大人の恋心と、しっとりした熱情をもって詠っている。著者は現代感覚の情緒溢れる俳句の創り手として抜きん出ている俳人。</p>	
7	1005-1005	忘れ貝	(株)文学の森 黛まどか 1,680円 (横浜市中央図書館)		<p>黛まどかの名を知ったのは通勤時に電車の中でよく読んでいた日刊スポーツ紙上で。野球紙面を彩る形で何ヶ月か毎日掲載されていた。スポーツ紙に俳句というのも新鮮だったが当時は自分も30代、俳句など年寄りくさいと思っていた頃だったので現代的な句に感心し数年前の歌壇を賑わした「サラダ記念日」を思い起こしたことがある。神奈川県出身でフェリス女学院短大卒の美人俳人。横浜市に住む男子にとってフェリスは一種の憧れの対象でもある。</p>	

8	1006-1006	ラストレター 「1 リットルの涙」	幻冬舎文庫 木藤亜也 480 円 (古 300 円)		療養中にTVドラマの再放送を見て感動し原作の「木藤亜也の日記」「母の手記」は古本屋で購入して読んだ。「ラストレター」は主人公の亜也が友達に宛てて書いた手紙 58 通を収録したもの。手紙が主体なので薄くこの本だけは本屋でありみかけなかった。立ち読みでも済んでしまうものの一冊欠けているのも気持ちが悪くたまたま見つけたブックオフで購入。	
9	1006-1008	星の旅人 スペイン「奥の細道」	角川文庫 黛まどか 540 円		「内なる道を求めて」歩き続けた 48 日間 900 km。聖地サンチャゴへの巡礼の旅。詳細な巡礼者マップを収録した完全ガイドブックにもなっている。『読売新聞』に連載されたものをまとめたもので俳句と文章で綴る全51話を掲載。行った気分になれる本で実際に歩いた人の心情が伝わってくる。	
10	1008-1008	犬は本よりも 電信柱が好き	本の雑誌社 吉野朔実 1,365 円		前掲「弟の部屋には本棚がない」と同シリーズの一応、書評本。「本の雑誌」という月刊誌に見開きで書かれているというか、描かれている漫画形式のコラムを纏めたものだが元々頁が少ないので本になっても超薄い。吹き出しの部分の文字は多いが立ち読みでも充分。だが何となく手元に置いておきたくなる本ではある。上梓の際にエッセイも加筆されている。	
11	1010-1015	新世界	柳広司 角川文庫 660 円		第二次大戦が終わった夜、原爆を開発するために砂漠の中に造られた町、ロス・アラモスで天才科学者たちとその家族・原爆投下の英雄が一堂に会し終戦を祝うパーティが盛大に催されていた。しかしその夜、一人の男が撲殺され死体として発見される。原爆の開発責任者、オッペンハイマーは、友人の科学者イザドア・ラビに事件の調査を依頼する。調査の果てにラビが覗き込んだ闇と狂気。科学者の真理の追究、自分の能力への挑戦。軍人の名声欲と良心。実験と知らされずに被爆した民間人・軍人。原爆開発のいきさつから原爆投下、終戦後の原爆がもたらす世界の構図をミステリー仕立てで考察したとも言える作品で。原爆はなぜ投下されたのかーこの一点だけでも奥は深い。	

12	1020-1022	怪笑小説	東野圭吾 集英社 1,631 円 (鶴見図書館)		<p>著者が仕事場に通う途中に思いつき、目の前にいる人々の心境を想像した「鬱積電車」。年金暮らしの老女が芸能人の“おっかけ”にハマり、乏しい財産を使い果たしていく「おっかけバアさん」、 “タヌキには超能力がある、UFOの正体は文福茶釜である”という説に命を賭ける男の「超たぬき理論」、周りの人間たちが人間以外の動物に見えてしまう中学生の悲劇「動物家族」...etc. ちょっとブラックで、おかしい人間たちが繰り出すブラック・ユーモア、パロディ、詭弁ありの短編9作品。</p> <p>珍しくあとがきに全作品のアイデアの発端が書かれていてこちらが一番面白い。著者の知られざるプライベートの一端も披露されている。</p>	
13	1104-1107	今昔奇怪録	朱雀門 出 角川ホラー文庫 540 円		<p>町会館の清掃中に本棚で見つけた『今昔奇怪録』という本。地域の怪異を集めた本のようなのだが、暇を持て余した主人公は何気なくそれを手に取り読んでしまう。その帰り、妙につるんとした、顔の殆どが黒目になっている奇怪な子供に遭遇する。そして気がつく、記憶の一部が抜け落ちているという具合に身の回りで奇怪な事が起き始める。</p> <p>第16回日本ホラー小説大賞短編賞を受賞した表題作を含む5編を収録。古典と新感覚の怪談5編を収録した短編集。作中の「今昔奇怪録」は雨月物語のようにストーリー性はなく数行の奇異な出来事を書いてあるのだがその雰囲気がいい。ラストもぼやかしているあたりが余韻をかもし出している。</p>	
14	1108-1110	深夜食堂の 勝手口	小学館 堀井憲一郎 著 安倍夜郎 協力 900 円		<p>ビッグコミックオリジナルに連載中の「深夜食堂」の派生本。作者のエッセイと思って書店に行ったら作者の知人のエッセイだった。残念！扱っている料理は原作とほぼ同様ふだん我々が普通に食べる料理について著者の思い出・感想を付しそのレシピを掲載している。</p> <p>「深夜食堂」は個性的な絵、大人感覚の雰囲気が好きで11月にTV化された。時間帯はその名の通り深夜に放映されている。</p>	

15	1112-1112	わが天才棋士・井山裕太	集英社インターナショナル 石井邦生 1,575 円		江戸時代に確立した家元制により日本の囲碁レベルは発生国の中国をしのいでいた時代が長く続いていたが今や国が力を入れている韓国・中国の青少年たちが世界を制している。日本では「ヒカル碁」のブームで降下気味だった囲碁人口が増えたものの若手が育っていなかった。井山裕太は20歳で名人位を獲得した世界に通用する期待される逸材。その井山を師匠である著者が弟子に取るいきさつから現在までと今後の期待を綴ったエッセイ本。	
16	1114-1120	壮心の夢	文春文庫 火坂雅志 830 円 (横浜中央図書館)		戦国時代、天下をめざす武将は数知れないが天下を取れなかった武将、取る気の無かった武将などお家の事情が複雑にからむ中それぞれの武将がどう生きたか何を考えていたかをなりきり視線の一人称で書かれた短編集。戦国ものは縁戚関係が複雑だがこういう形式で書かれるとわかりやすいし共感も湧く。	
17	1120-1123	西行桜	富士見書房 1,732 円 (横浜中央図書館)		若狭小浜の領主邸で能を舞っていた世阿弥はふりしきる桜から霊気を感じる。枝垂れ桜を桜谷から植え替えて以来、領主の奥方が奇病に伏しているという。呪術にかかった男女を、世阿弥が、闇源氏が、元三大師が解き放っていく。主人公は実在の人物だが内容は伝奇小説で陰陽師に通じる闇と怪しの雰囲気を味わえる短編集。	
18	1126-1128	軒猿の月	PHP研究所 火坂雅志 1,680 円 (横浜中央図書館)		上杉謙信の忍び、軒猿に下された密命は信長暗殺。幻術と体術で知られる「とび加藤」との異色の対決。ネタバレになるが「月」はブーメランに似た軒猿の隠し武器。表題作など、戦国時代を舞台とする幻想的で少々風変わりな作品を集めた短編小説集。八篇のなかでは、「ト伝花斬り」南国の花咲く薩摩坊津の地で明国の苗刀を使う兵法者との戦い。「家紋狩り」農民出身の秀吉は家紋を持たなかったが関白・太閤となり天皇家の桐紋(五七の桐)を賜ったのを期に豊臣家以外の使用を禁止位牌の紋まで塗り潰し由緒ある仏閣の紋・道具類は壊し焼いてしまう暴挙に出る。一などが特に印象深い。が史実と創作の境がわからなくなる話が多い。	

19	1126-1130	花ごろも	PHP研究所 黛まどか 998 円 (横浜中央 図書館)		<p>1頁1句のポケットサイズの句集。 現代人の生活、心情、恋愛感のある句を詠みたいと思ひ参考にしようと思ひ借りたが心情を吐露するのを潔しとしない小生としては鑑賞は出来ても同じ様に作るのはなかなか難しい。</p>	
20	1201-1203	まほろ駅前 番外地	文藝春秋 三浦しおん 1,575 円		<p>第 135 回直木賞受賞作『まほろ駅前多田便利軒』での愉快的な奴らが帰ってきたと帯にあるように主役コンビの多田・行天の物語とともに、前作に登場した星、曾根田のばあちゃん、由良少年、岡老人の細君が主人公となるスピンアウトストーリーを収録した短編集。 「人物像を深く掘り下げる」と言うよりは、サブキャラ達の日常にあの 2 人が登場する番外編でそれぞれのキャラが相乗的に引き立てられる狙いは成功している。ハードボイルドを盛り込んだ部分はストーリーに溶け込んでいないところも感じるがほろっとする部分もあり主人公2人の陰の部分も感じさせる作品で続編を匂わせている。</p>	
21	1207-1210	わらの人	文春文庫 山本甲士 690 円		<p>タイトルを見てサム・ペキンパー監督の「わらの犬」を連想した。又、たまたまBS放送で「わらの女」というジーナ・ロロブリジダ、ショーン・コネリー主演の映画を観たばかりだったので縁を感じて購入。「わらの人」というと呪い人形みたいだが語源は老子の言葉から使われるようになったもので藁=取るに足らないという意味合いで解説にも似たようなことが書かれている。どこにでもありそうな地方都市の、よくある退屈なオフィスで、上司に怒鳴られ後輩から軽んじられる三十歳手前の OL。疲れ果てたある日、ふと立ち寄った不思議な理容店。女主人からマッサージを受けているうちに睡魔に襲われる。目覚めてみると鏡の中の自分は別人になっていたという現代人の痛快な変身譚六話。取るに足らない気弱な男女が髪型を変えられてしまったことで強気な性格に変身するもので物を言えない日本人向きのストーリー。</p>	

